

平成29年度農作物病害虫発生予察注意報第3号

平成29年(2017年)11月30日
山 口 県

病害虫名 イチゴのハダニ類

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 多

3 注意報の根拠

- (1) 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は50.0% (平年30.0%)、寄生株率は16.5% (平年6.6%)で、過去10年間で最も多い発生であった(図1)。
- (2) 発生している主な種類はナミハダニ(黄緑型)であり、10月の調査時よりも増加している(図2)。

4 防除方法

- (1) ハダニ類は部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、ハダニ類の発生を認めたら直ちに防除を行う。
- (2) ハダニ類の密度が高いと薬剤による防除効果が低下するため、防除の前にはハダニ類の寄生した下葉を除去して袋などに詰め、ほ場外に持ち出して適正に処分する。
- (3) 防除薬剤は、表を参照する。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤は葉裏まで十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける(表参照)。
- (3) 気門封鎖剤(表の殺虫剤コード「気」)はハダニ類の卵には効果がないため、7～10日間隔で連続散布する。
- (4) 生物農薬(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ)を放飼後にハダニが増加した場合には、カブリダニに影響の少ない殺ダニ剤を散布する。ただし、ハダニ類が多発している場合は、殺ダニ剤を中心とした薬剤防除に切り替える。
- (5) 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。
- (6) 適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守など安全で効果的な防除に努める。

6 その他

「イチゴのハダニ類の発生確認および簡易薬剤検定方法」を活用し、発生確認および防除薬剤の選定を行う。

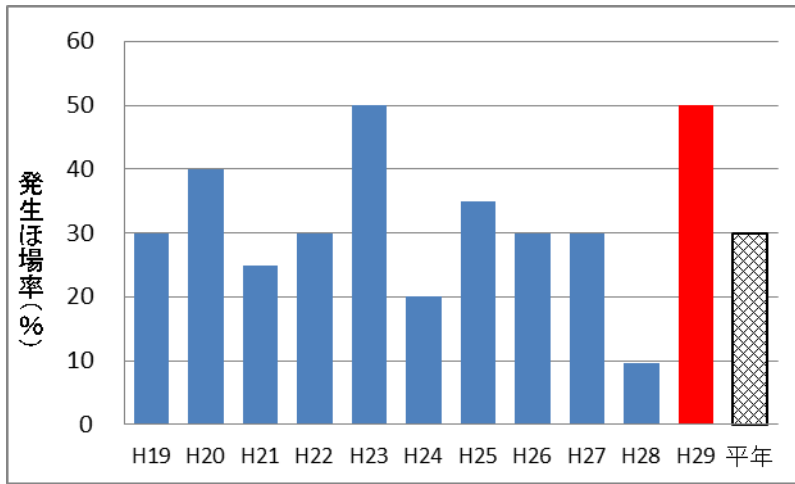


図1 ハダニ類の発生ほ場率の年次比較 (11月下旬調査)

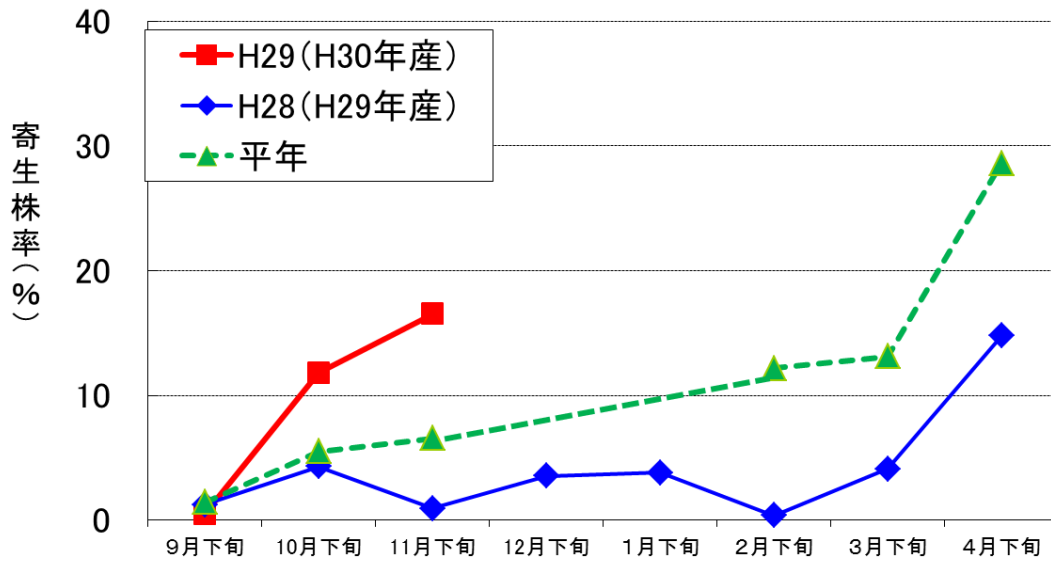


図2 ハダニ類の寄生株率の推移

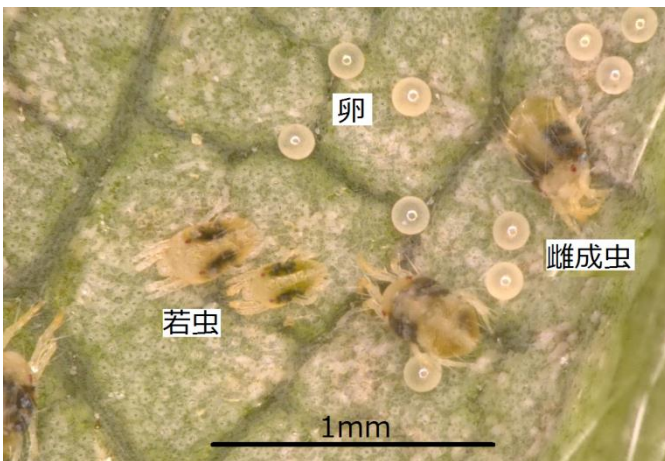


図3 ナミハダニ (黄緑型、成虫・若虫・卵)

図4 ナミハダニが多発生したイチゴ

表 イチゴハダニ類の主な農薬(野菜類での登録を含む)

系統	殺虫剤コード	一般名	商品名	ハダニ類登録	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	ミツバチの安全日数	カブリダニ類への影響
天敵		ミヤコカブリダニ剤 200頭/10ミリリットル	スパイカルEX(-)	○	100~300ミリリットル /10a(約2000~6000頭)	発生初期	-	○	/
		ミヤコカブリダニ剤 50頭/パック	スパイカルプラス(-)	○	40~120/パック/10a(約 2000頭~6000頭/10a)				
		チリカブリダニ剤 2000頭/100ミリリットル	スパイデックス(-)	○	100~300ミリリットル /10a(チリカブリダニ約 2000~6000頭)				
		チリカブリダニ剤 1000頭/250ミリリットル	チリトップ(-)	○	6000頭/10a				
気	マシン油乳剤 97%	ハーベストオイル(普)		○	200倍,100~300リットル /10a	-	-	○	△
		トモノールS(普)		○	100~150倍,100~300リッ トル/10a	-	-	○	△
		スプレーオイル(普)		○	100~150倍,100~300リッ トル/10a	-	-	○	△
		アタックオイル(普)		○	100~150倍,100~300リッ トル/10a	-	-	○	△
	マシン油乳剤 98%	ラピサンスプレー(普)		○	100~150倍,100~300リッ トル/10a	-	-	○	△
	プロピレングリコールモノ 脂肪酸エステル乳剤 70%	アカリタッチ乳剤(普)		○	1000~3000倍,100~400 リットル/10a	収穫前日まで	-	○	○
	還元澱粉糖化物液剤 60%	エコピタ液剤(普)		○	100倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	-	○	△
	脂肪酸グリセリド乳剤 90%	サンクリスタル乳剤(普)		○	300~600倍,150~500リッ トル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
	ソルビタン脂肪酸エステ ル乳剤 70%	ムシラップ(普)		○	500倍 100~300リットル /10a	収穫前日まで	-	○	△
	デンブン液剤 5%	粘着くん液剤(普)		○	100倍,150~300リットル /10a	収穫前日まで	-	○	△
銅-	気	DBEDC乳剤 20%	サンヨール(普)	○	500倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	6回以内	○	○
有機リン	1B	マラソン乳剤 50%	マラソン乳剤(普)	△	2000~3000倍,100~300 リットル/10a	収穫3日前まで	5回以内	10~15 日	×
ピレスロイド	3A	アクリナトリン水和剤 3%	アーデント水和剤(普)	△	1000倍,150~300リットル /10a	収穫前日まで	4回以内	2~3日	×
マクロライド	6	エマメクチン安息香酸塩 乳剤 1%	アフファーム乳剤(普)	○	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	2~3日	×
		ミルベメクチン水和剤 2%	コロマイト水和剤(普)	△	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	×
-	10B	エトキサゾール水和剤 10%	バロックフロアブル(普)	△	2000倍,100~350リットル /10a	収穫前日まで	1回	翌日	△
-	13	クロルフェナピル水和剤 10%	コテツフロアブル(劇)	△	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	10~15日	△
-	20B	アセキノシル水和剤 15%	カネマイトフロアブル(普)	△	1000~1500倍,150~300 リットル/10a	収穫前日まで	1回	○	○
-	21A	ピリダベン水和剤 20%	サンマイトフロアブル(劇)	△	1000~1500倍,100~300 リットル/10a	収穫開始3日前 まで	1回	3~7日	×
		テブフェンピラド乳剤 10%	ピラニカEW(劇)	○	2000~3000倍,150~300 リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	×
-	25A	シフルメトフェン水和剤 20%	ダニサラバフロアブル (普)	△	1000倍,100~350リットル/ 10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○
		シエノピラフェン水和剤 30%	スターマイトフロアブル (普)	○	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○
-	不明	ピフェナゼート水和剤 20%	マイトコーネフロアブル (普)	○	1000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○
-	10B 気	エトキサゾール・オレイン 酸ナトリウム水和剤 5.2%	ダニメツフロアブル(普)	○	1000倍,150~350リットル /10a	収穫前日まで	1回	翌日	△
-	21A 25B	フェンピロキシメート・ピ フルブミド5.15%	ダブルフェースフロアブル (普)	○	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	1回	○	△
-	-	プロピレングリコールモノ 脂肪酸エステル・ポリオ キシン水和剤	デュアルサイド水和剤 (普)	○	2000倍,100~300リットル /10a	収穫開始14日 前まで	3回以内	○	×

注1 殺虫剤コード：薬剤の作用機作による分類で、同じコードの薬剤を連用すると感受性が低下する可能性が高くなる。

「気」は気門封鎖等の物理的効果を示す薬剤で、感受性の低下には影響しないと考えられている。

注2 ハダニ類登録 「○」：登録あり。「△」：登録はあるが、県内のイチゴ産地において感受性の低下事例が確認された薬剤

注3 ミツバチの安全日数

「○」：影響なし(「薬液が乾けば影響なし」を含む)

・本表は、各県の資料及びメーカー資料を参考に安全日数を掲載した。

・通常の使用では影響がない剤であっても、薬液が乾かなかつたり、臭いが残る場合は、訪花活動に影響を及ぼす場合がある。

・低温・曇雨天が続く場合は薬剤の分解が進まず、遅くまで影響が残ることがある。

・巣門を開け、ミツバチを再導入する前には、換気を十分に図り、薬液が乾いていることを確認する。

注4 カブリダニ類への影響

日本バイオロジカルコントロール協議会資料を参考にミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響をまとめた。

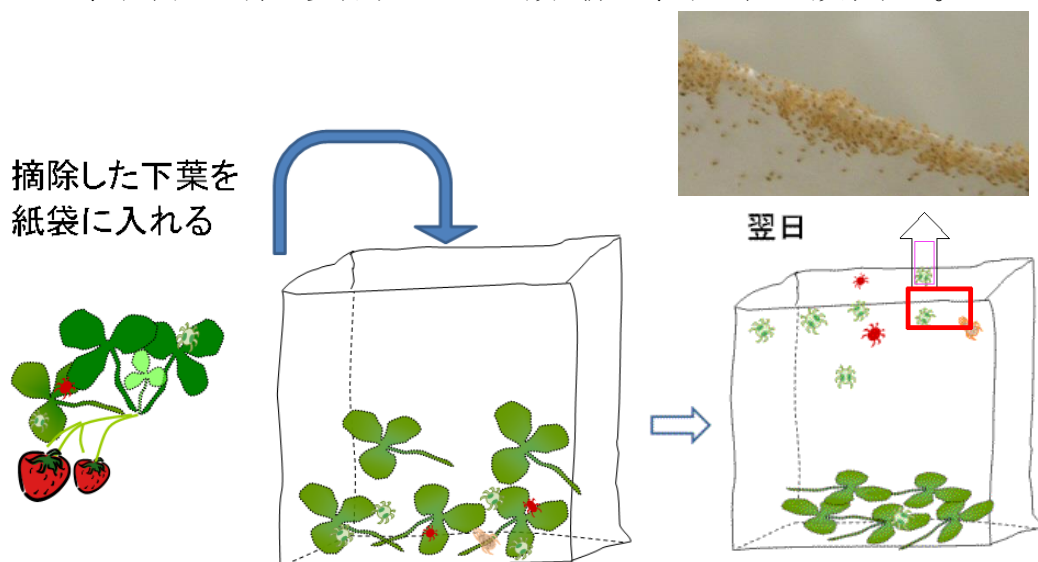
「×」：死亡率が高く、影響が大きい 「△」：影響あり 「○」：影響なし

イチゴのハダニ類の発生確認および簡易薬剤検定方法

山口県病害虫防除所

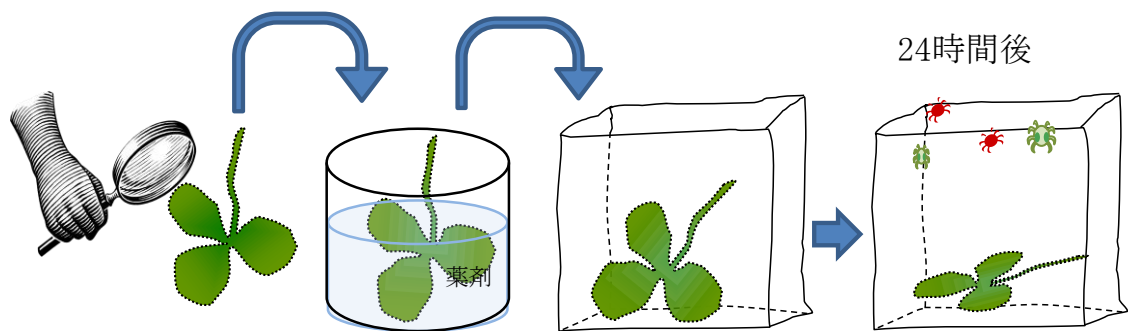
<発生確認手順>

- 1 ハダニの発生しやすい場所（暖房機周辺や出入り口付近）や白くかすり状に被害が発生している場所から下葉を10枚程度集め、白い紙袋に入れる。
- 2 葉を入れた白い紙袋を室内に静置し、葉を乾燥させる。
- 3 翌日、紙袋の上部を歩行するハダニ類（成虫、若虫）を観察する。



<簡易薬剤検定手順>

- 1 ハダニの発生している葉を常用濃度の薬液に10秒間浸漬し、白い紙袋に入れる。
- 2 室内に保管し、24時間後に紙袋の上部を歩行するハダニ（成虫、若虫）を観察する。
- 3 歩行するハダニ類が多数認められる薬剤は、効果が低いと考えられるので使用を控える。



<見分けるポイント>



ナミハダニ
(黄緑色)



カンザワハダニ
(赤色)



ミヤコカブリダニ
(オレンジ色、洋なし型)
(天敵：ナミハダニを補食)



チリカブリダニ
(赤色、足が長い)
(天敵)